



角永和夫は、ブトン中学校の生徒に
天然素材の彫刻について指導しています。

「不気味な美しさ」 アーティストは、小枝や岩をアートに彫る 方法を生徒に示します。 文・ Ed Golder

中学1年生のロバート・ディーンは、乱暴にねじれた発泡スチロールのひもを使って彫刻を作り、それをバリに突き刺して長い小枝の先に腰掛けました。まるで誰かのひどく空虚な頭のように見えました。彼はそれを次のように呼びました。金曜日の午後、グランドラピッズ美術館での美的努力の1つではありませんでしたが、ロバートのほとんど自然なアートワークが角永和夫を笑顔にしました。まさに日本の彫刻家が自分で行うようなものです。角永は一部の人に話しましたグランドラピッズ公立学校が主催するアーティストプロフィールプログラムの一環として、グランドラピッズシステムの5つの中学校すべてを代表する36人の若者が、角永は学生に彼のユニークなアートワークを見せ、自然の彫刻の精巧さで彼らを指導しました彼はまた、美術館のギャラリーのサ

ンプルを持ってきました。彼の彫刻は、シルクワームの糸で覆われた十数個の木製のハニカムと、コム内で糸を紡いだ繭で構成されています。bs. ワームはほとんどの作業を自分たちで行い、角永は彫刻が正しく見えると思ったときに熱でワームを殺しました。プロフィールプログラムのコーディネーターであるバーブ・リンドクイスト氏は、角永が英語を話さないという事実は、「アートは普遍的である」ことを強調している。他の作品は「理事長」、「ウッドマウス」、「学生の教師の見方」と呼ばれ、棒とトウワタの鞘で作られた醜い顔を描いていました。「私たちの学校の教師の多くは厳しいです」と、市立中学校の8年生である彫刻家 Tongsop Kim は説明しました。ウェストウッド中学校の美術教師ドン・フォンテーヌは、生徒たちの独創性に感銘を受けました。「彼らが何を

思い付くのかかわからない」と彼は言った。「彼らがどれほど意図的であるかを見てください。ここにあるこれらの3人は建物の中で最もおしゃべりです」とフォンテーヌは彼らの仕事に夢中になっている3人の女の子を指して言った。「彼らはパット・サッヘンではありません。イロコイ中学校の美術教師は同意しました。「すべてがとてもプラスチックで、今日購入されました」と Sachen は言いました。「森の中を歩いているだけで画材が見つかるのは子供たちにとって良いことです。」ウェストウッド中学校の8年生であるシンディ・スチュワートは、角永との会談まで、彼女は芸術に一過性の興味しか持っていなかったと言いました。日本のアーティストと仕事をした後、彼女はメディアの創造的な可能性を認識するようになったと言いました。

スチュワート氏は、「たくさんのものを組み合わせることができ、それは素晴らしい結果になる」と語った。「それは本当にオリジナルです。私はオリジナルが好きです。」彼女はミシガン湖のビーチのように見える小石と流木から彫刻を作りました。その名も東京。若いアーティストが自然に恋をしたのは「美しさに囲まれた」場所でした。20代半ばにフルタイムで彫刻を始めたとき、彼は蚕のような日本の生活の自然な特徴を作品に取り入れました。現在ロサンゼルススタジオに収蔵されている彼の彫刻は、米国で高い評価を得ています。ロサンゼルスタイムのレビューによると、彼のカイコの芸術は「不気味な美しさ」に満ちています。「アートウィーク」の別のレビューによると、「1970年代初頭以来、角永は天然素材の本質を明らかにするための独創的な方法を考案してきました。」